



わたし、アナタ、min-na

No.36

そのすがたがうれしい

SSH 編

2021年 12月20日 市立札幌開成中等教育学校便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>

<コズモフロンティアセミナー～講演「環境先進国ドイツから考える私たちの未来」～>

11月15日(月)、札幌市環境保全アドバイザーのビアンカ・フルスト様をお招きし、「環境先進国ドイツから考える私たちの未来」と題した講演を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、この二年間は数多くの海外研修実施が見送られてきましたが、そのような中でも久しぶりに海外の風を感じることでできる時間を過ごせたのではないのでしょうか。

講師のビアンカ様からも生徒の興味・関心に応えようと、環境問題への取組のみならず、ドイツの文化や言語などについて様々な視点からご紹介をいただきました。合間にはドイツに関するクイズの出題もありましたが、1年生から6年生までの誰もが積極的に参加し、楽しんで解答している様子は大変印象的でした。また最後の質疑応答でも、制限時間いっぱいまでドイツのことを吸収しようと、多くの生徒が熱心に耳を傾けていましたね。

今後、海外研修がいつ、どのような形で復活していくことになるのかはわかりませんが、その時にはビアンカ様から学んだことを生かして研修に臨んでくれることを我々一同期待しています。

なお、下記に参加した生徒の感想を一部抜粋の形で掲載しています。



○今日の講演を聞いて、ただ環境的なだけではなく、健康的であったり経済的であったりという+αがある政策や取組が、持続可能な取組として今に残っているとわかりました。是非日本に取り入れるべきだと考えました。

○日本とドイツの環境に関する教育にはあまり差が無いということが意外だった。私は日本の環境教育が少なくともドイツよりは遅れていると疑わなかったからだ。しかし、そうではないと知り、日本でもきっかけと少しの勇気があれば、ドイツのような改革ができるのではないかと感じた。

○具体的なドイツの取組の説明の中で驚かされることが多くあり、人間が住みやすい街づくりが最優先ではなく、環境保全の優先をすることで、人間が住みやすくなっているというプロセスが素晴らしいと思いました。

<北海道大学 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 参加報告>

11月27日(土)、北海道大学で“ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム～次世代へのメッセージ～「材料で未来を拓く」”が行われ、本校3,4年生10名が参加しました。ノーベル賞の受賞者や北大の研究者からの講演の他、パネル討論も行われ、カーボンニュートラルの最新技術や、筋肉のように負荷を与えて力強く成長する材料化学の話等、普段聴くことができないサイエンスを体験することができたようです。

登壇者:	◆ 天野 浩 氏	・名古屋大学教授(2014年ノーベル物理学賞)
	◆ 江崎玲於奈 氏	・横浜薬科大学学長(1973年ノーベル物理学賞)
	◆ 前田 理 氏	・北海道大学化学反応創成研究拠点長・教授
	◆ 猪熊 泰英 氏	・北海道大学化学反応創成研究拠点准教授

以下、参加生徒からの振り返りです。

○実際に大学に赴いて講演を聞くというのは初めての体験であり、そこで得られたものはとても大きいと感じた。天野さんの基調講演では、カーボンニュートラルについてノーベル賞受賞者の視点で話がされていてとても興味深かった。カーボンニュートラルというと近年よく聞く言葉であり、調べるとネットの記事は多くヒットするが、そこでは知り得ないような、最先端の展望について聞くことができた。基調講演の後のパネル討論では、フォーラムに出演した方々の様々な意見を聞くことができた。その中

でも高校時代の話は興味深く、「どのように学校生活を過ごすべきか」という質問では、「打ち込めることを探す」という答えがあった。やりたいことが決まっている人はそれを幸運なことだと自覚し、それに打ち込むことが大切であるという。高校生活におけるひとつの指標として、この意識は持つていようと思う。(4年生)

○天野教授、前田教授のどちらの講演も内容が難しかったが、最先端の化学の一部について触れることができ、化学への関心が深まった。また、「地球温暖化などの環境問題の解決に材料化学がどう貢献できるか」や「社会に対して材料がどう関わっていくのか」というテーマでのパネル討論では、今ある材料の発展や新しい材料の開発など、研究の可能性について討論されていて材料の魅力について知ることができた。また、地球温暖化など自分の知っていることを題材として討論されていたので材料の可能性について考えやすかったので、面白い討論だった。(3年生)

＜茨城県水戸市 英語による科学研究発表会 参加報告書（初参加！！）＞

5年生のコズモサイエンスの研究成果を12月11日(土)にSSH校の茨城県立緑岡高校主催の発表会へ7グループ28名が参加し、英語でポスター発表してきました。生徒の感想抜粋です。

○英語での発表ということもあって準備がものすごく大変で口頭発表に立候補しないほうが良かったんじゃないかと思うくらい苦しいことがたくさんありました。しかし研究発表会を終えてみてあの場で発表したことで多くの方が私たちの研究を認知して下さり、ポスターセッションの時に質問や意見をくださって本当に価値ある時間になりました。自分達からアクションしない限り価値ある物を手にするにはできないんだと強く感じるきっかけになりました。

○今回研修では、自分達の知識の狭さを痛感した。やはり研究をより充実させるためにはそれなりの知識が必要だった。研究発表会を通して茨城大学の方や、他の高校の生徒さん達などにたくさんアドバイスや知識をもらってとても視野が広がり、すごく刺激を受けた1日だった。学校内で自分たちだけで考察をするには限界があるため、人の目に触れる発表の場所とかに足を運ぶことがどんなに大切なのかを知った。もっと場数を踏みたい。



生徒の感想にあるように、学校外での発表や交流を通して得るものは大きいです。是非積極的に研修や外部発表に参加し、場数を踏みましよう！

＜札幌市環境プラザ 見学ツアー ～「エネルギーをたどれ」～＞

12月13日(月)に1年生20名が札幌環境プラザに赴き、環境やエネルギーについて学習してきました。1年生にとっては初めての校外での活動になりました。施設内にある太陽光パネルや、世界中で起きている環境問題を表した展示物を見学しました。また、家庭の電化製品がどれほど電力を消費しているのか把握できる展示物を通して、エネルギー問題についても触れました。その他にも、日常生活で使用する製品がどのようなエネルギーで動いているのかを考えるアクティビティを通して、普段自分たちが使用しているエネルギーが何からどのように作られているのか学習しました。

環境問題を考えるきっかけになる取組でした。

